

Real humanitarian Action

REACT

2008
Vol.1
(2月発行)



[特集]

メディアに 忘れられた 人道的危機 2007



MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団



30万人以上が避難生活
Sri Lanka スリランカ



5人に1人の子どもが
5歳未満で死亡
Somalia ソマリア



武力衝突で村が全滅
Central African Republic 中央アフリカ共和国



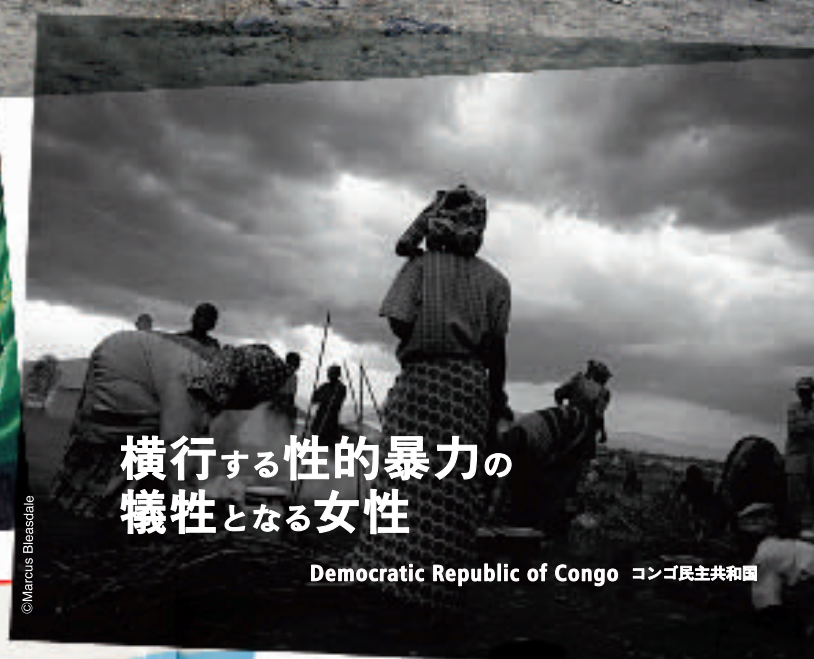
薬剤耐性結核で失われる命
Tuberculosis 結核



毎年2万人が
HIV/エイズで命を落とす
Myanmar ミャンマー



戦闘で半壊したビルに住む
Chechnya チェチェン



横行する性的暴力の
犠牲となる女性
Democratic Republic of Congo コンゴ民主共和国



毎年、
500万人の子どもが
栄養失調で死亡
Malnutrition 子どもの栄養失調



5人に1人がHIV/エイズ患者
Zimbabwe ジンバブエ



50年以上、内戦が続く
Colombia コロンビア

日本から遠く離れた地域で、紛争や感染症の拡大で生命の危機にさらされている人たちが大勢います。けれど、経済や政治の面で深いつながりのない国々で起こっている出来事は、日本人の目や耳にニュースとして入ってくることはほとんどありません。

国境なき医師団が最も援助を届けるべき相手は、自国からも国際社会からも置き去りにされ、生きるための最低限の援助さえも受けられない、「忘れ去られた危機」の中にいる人びとです。今回紹介する数々の人道的危機はすべて、国境なき医師団が日々目の当たりにしている現実そのものです。

一人でも多くの人びとがこの現状を知り、行動を起こすことこそが、人道的危機にさらされた人びとを救い出すことにつながると、私たち国境なき医師団は確信しています。

Forgotten Crisis

～忘れられた人道的危機～

INDEX

特集 忘れられた人道的危機

P2-3 忘れられた人道的危機とは

P4-5 チェチェン、ジンバブエの危機
2007年「10の最も報じられなかった人道的危機」より

P6 危機にMSFはどのように介入するか

P7 2007年 派遣者一覧

P8 MSF日本からのお知らせ

Forgotten Crisis

～忘れられた人道危機～

MSFは2007年夏、貧困地区エプワースに新たな診療所を開設し、現在3万3000人のHIV／エイズ患者に無償で治療を提供しています。ジンバブエの活動責任者の一人、ステイブ・ハイドは次のように説明します。「毎朝、体が衰弱して立ち

か った安定した経済を誇っていたジンバブエでは2007年、経済危機と政情不安の加速により、国民の生活が深刻に蝕まれました。インフレ率は3500%を超え、国民の約8割が失業状態にあります。1990年には62歳だった女性の平均寿命が今では34歳まで下がりました。その大きな原因はHIV／エイズです。



©Michael G. Nielsen

Zimbabwe

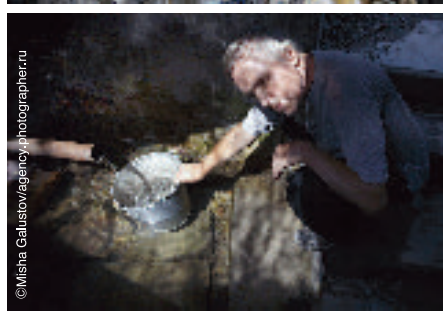
ジンバブエ
(リスト初登場)

成人の5人に1人がHIVに感染
決定的な医師不足で多くの命が失われていく

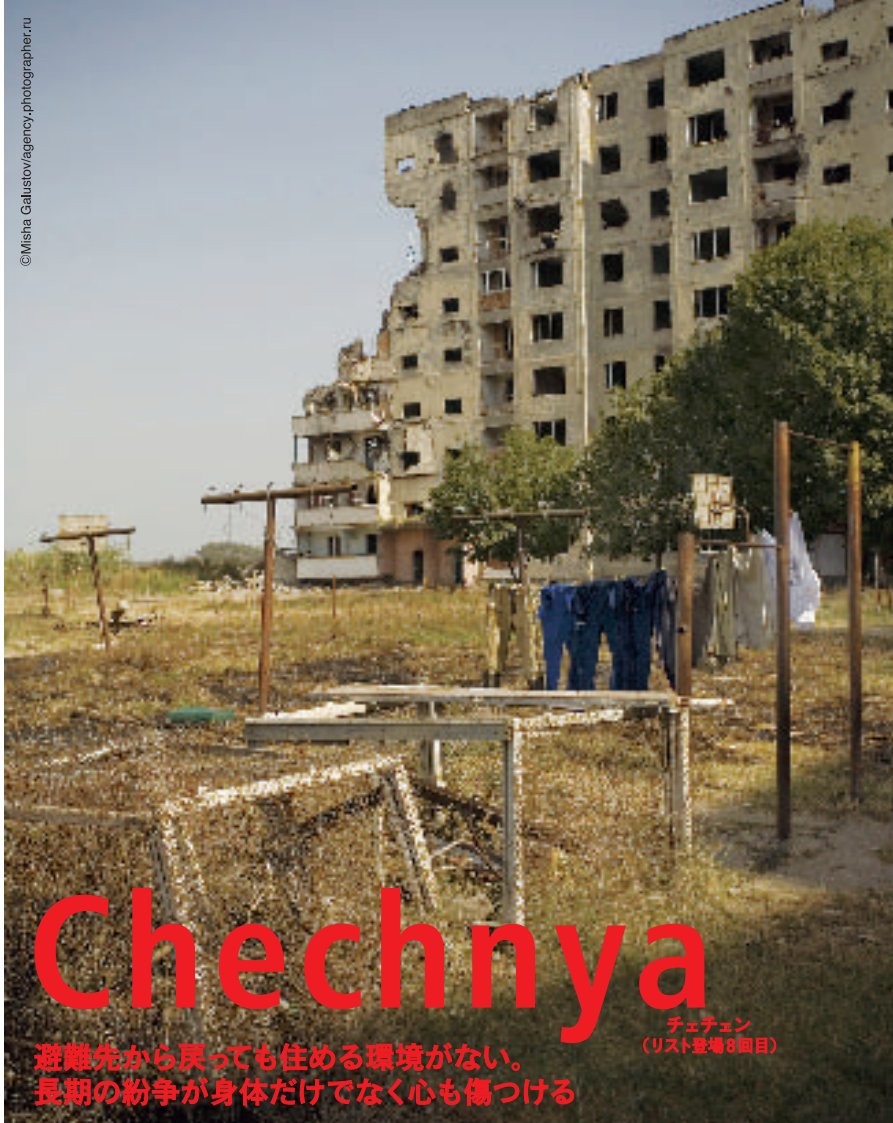
写真右上: ブラワヨのHIV／エイズクリニックには常に長蛇の列が、MSFは現地の保健当局と協力し、ARV治療を行っている。写真下: これからの大きな課題はHIVの母子感染予防。だが出産前ケアには多額の治療費がかかるため、診療所に通える女性は少ない。このためMSFでは無償で治療を提供。



©Michael G. Nielsen



写真右: 爆撃を受けて半壊した建物に人びとは住み続けている。他に住む場所がないからだ。写真左上: ミサイル攻撃で住んでいた家を完全に破壊された女性。左下: 廃墟となっていた建物に住みついていた男性。彼の家も爆撃により破壊されてしまった。



Chechnya

チェチェン
(リスト登場8回目)

避難先から戻っても住める環境がない。
長期の紛争が身体だけでなく心も傷つける

チ エチェンの武装勢力とロシア政府との戦闘が最も激しかった時期からすでに4年が過ぎ、首都グロズヌイでは復興が進んでいます。しかしチェチェンを含めコーカサス地方では、現在も大規模な軍が駐留し続け、一般市民に対する爆撃や暗殺、拉致が依然と

して続いています。戦闘が収まって多くの難民が帰還したものの、人びとは今も厳しい状況下におかれています。

この紛争に伴う苛烈な暴力は、多くの一般市民の生命を奪ってききました。紛争は身体だけでなく、心にも大きな傷をもたらします。MSFが対面調査を行った人のほとんどが、不安・不眠・うつ状態に苦しんでいることが明らかになりました。MSFの活動には、こうした暴力や避難生活などが原因で生じた心の傷のケアも含まれています。

またチェチェンの病院では、小児科医と産婦人科医が絶対的に不足しているため、MSFは月1000件以上の診察を実施しています。さらに、深刻な保健問題のひとつである結核に対応するための結核病院の支援や、一般市民が戦闘で受けた外傷を治療するための再建外科プログラムの運営も行っています。

＊黒海とカスピ海に挟まれた地域。ロシア連邦やグルジアなど複数の国にまたがる。

現実の人的危機から目を逸らしてはならない。

2007年『10の最も報じられなかった人的危機』
Top 10 Most Underreported Crises of 2007

国境なき医師団(MSF)は1998年以来毎年、年間を通じて世界で最も注目を浴びず、報道されることの少なかった人的危機のワースト10のリストを発表しています。その目的は、メディアの関心の外側で、出口の見えない危機にとらわれ続ける人びとの窮状を訴えることにあります。

- ・結核: 新薬が試されないまま耐性結核が拡大
- ・子どもの栄養失調: 500万人の子どもの死因は栄養失調と言われている
- ・コロンビア: 約50年にわたって、紛争地域で生活する人びと
- ・コンゴ民主共和国: 数十万人におよぶ避難民がさらされる、生命と尊厳の危機
- ・ジンバブエ: 政治・経済混乱で医療制度も崩壊
- ・スリランカ: 25年間も政府軍と反政府勢力が停戦と紛争を繰り返す
- ・ソマリア: 16年にもおよぶ内戦で健康指標は世界最悪レベルに
- ・チェチェン: 紛争は収まりつつあるが、いっこうに去らない人的危機
- ・中央アフリカ: 武力衝突で苦境に陥る一般市民
- ・ミャンマー: 大幅に制限される人道援助

2007年『10の最も報じられなかった人的危機』の詳細は、MSF日本のウェブサイト(www.msf.or.jp)でもご覧ください。

Expatriate staff 2007年 派遣者一覧 in 2007

2007年はMSF日本から45名のスタッフが
延べ54回派遣され、世界各地で援助活動を行いました。

※表記は氏名、ポスト、派遣先国名、地域、派遣期間

				
Yuka SUGAHARA 菅原 由佳	Keiko FUKINO 吹野 恵子	Takanori KYOGOKU 京極 敬典	Satoru IDA 井田 覚	Miyako TACHIBANA 橋 都
財務コーディネーター	内科医	小児科医	ロジスティシャン	看護師
スーダン (ダルフル) 2007.1～2007.7	ブルジア (ヌグジジ) 2007.2～2007.4	スーダン (ポイントベド) 2007.2～2007.8	スーダン(アビエイ)2007.2～2007.4 ヨルダン(アンマン)2007.5～2007.6 イラク(アルビル)2007.7～派遣中	スーダン (ダルフル) 2007.2～2007.7

							
Misato TAMURA 田村 美里	Yoko KIMURA 木村 陽子	Nozomi AOIKE 青池 望	Miki TOKUMA 徳間 美紀	Akemi KAMITAIRA 上平 明美	Junko NAKATSUKA 中塚 順子	Miyabi MATSUYAMA 松山 雅	Kunio YAMAZUMI 山住 邦夫
助産師/看護師	財務コーディネーター	内科医	助産師	看護師	臨床検査技師	精神科医	ロジスティシャン
チャド(イリス)2007.2～2007.6 ニジェール(タコロ)2007.7～派遣中	スーダン (ジュバ) 2007.2～派遣中	ケニア (ホマベイ) 2007.3～2007.12	スーダン (レッドシー) 2007.3～2007.11	ウガンダ (アラバ) 2007.3～派遣中	スーダン (ダルフル) 2007.3～2007.12	バングラデシュ (テクナフ) 2007.3～派遣中	マラウイ (リンベ) 2007.3～2007.12

							
Kyoko MATSUKAWA 松川 恭子	Shinjiro MURATA 村田 慎二郎	Osamu KASAHARA 笠原 修	Kumi MEHARA 目原 美実	Akiko YAMAMOTO 山本 阿紀子	Hayato OGUCHI 小口 隼人	Fumihiko OKAMOTO 岡本 文宏	Yoji SUGAMURA 菅村 洋治
助産師	ロジスティシャン	ロジスティシャン	内科医	産婦人科医	ロジスティシャン	内科医	外科医
スーダン (ダルフル) 2007.3～2007.12	スーダン (ダルフル) 2007.4～派遣中	ウガンダ(バシンガ)2007.4～2007.7 ウガンダ(カンバ)2007.8～2007.10	スリランカ (パティカロー) 2007.4～2007.11	スリランカ(パティカロー)2007.4～2007.8 スリランカ(ポイントベド)2007.9～2007.11	スーダン (ダルフル) 2007.5～派遣中	スーダン (ダルフル) 2007.5～2007.11	ナイジェリア(ポートハーコート) 2007.5～2007.6 イラン(メルバン)2007.12～2007.12

							
Takashi NAKAGAWA 中川 崇	Yasuko OTA 太田 靖子	Maki KOGO 小郷 真紀	Yukari YOSHIDA 吉田 ゆかり	Miho MASUO 増尾 美帆	Junko AKAISHI 明石 淳子	Yumiko ISHIZUKA 石塚 由実子	Nobuko KUROSAKI 黒崎 伸子
形成外科医	看護師	助産師	看護師	看護師	看護師	内科医	外科医
ヨルダン (アンマン) 2007.5～2007.6	イラン (ザヘダン) 2007.5～派遣中	ソマリア (ペレトウエイン) 2007.5～2007.11	エチオピア (アブドゥラフ) 2007.6～派遣中	コロンビア (アラウカ) 2007.7～2007.7	ナイジェリア (ポートハーコート) 2007.7～派遣中	グルジア (アバジャ) 2007.7～2007.10	スリランカ(パティカロー)2007.7～2007.8 ナイジェリア(ポートハーコート)2007.8～2007.8

							
Kentaro HAYASHI 林 健太郎	Vivek MISHRA ミシュラ ビベック	Ryukichi ISHIDA 石田 龍吉	Yuko SHINADA 品田 裕子	Mamiko HAGIWARA 萩原 麻美子	Yoko MIURA 三浦 曜子	Misa SUGAWARA 菅原 美紗	Akiko KONO 河野 暁子
麻酔科医	ロジスティシャン	整形外科医	看護師	内科医	財務コーディネーター	内科医	臨床心理士
スリランカ(パティカロー) 2007.7～2007.8 イラク(スレイマニア)2007.12～派遣中	スーダン (ハルツーム) 2007.8～派遣中	スーダン (アンマン) 2007.8～2007.9	イラン (メルバン) 2007.8～2007.12	イエメン (アワル) 2007.8～派遣中	タイ (バンコク) 2007.9～派遣中	タイ (ラセ) 2007.10～派遣中	パレスチナ (ヘブロン) 2007.10～派遣中

							
Yusuke SHIMAKAWA 島川 祐輔	Hyemija KIM 金 恵美子	Michiko KYOKAN 京寛 美智子	Mariko ITO 伊藤 まり子	Akiko MATSUMOTO 松本 明子	Chikako KINOSHITA 木下 稚佳子	Chieko MORIYAKI 森脇 千英子	Ruriko NISHINO 西野 るり子
内科医	看護師	看護師	産婦人科医	看護師	助産師	ロジスティシャン	産婦人科医
タイ (ベッタブ) 2007.10～派遣中	タイ (ベッタブ) 2007.10～派遣中	ナイジェリア (ポートハーコート) 2007.11～2007.12	スリランカ (ポイントベド) 2007.11～2007.12	ウガンダ (カラモジャ) 2007.12～派遣中	パキスタン (クエッタ/クシュラック) 2007.12～派遣中	タイ (ベッタブ) 2007.12～派遣中	スリランカ (ポイントベド) 2008.12～派遣中



- | | |
|----------|-----------|
| ① リベリア | ⑪ ヨルダン |
| ② ニジェール | ⑫ パレスチナ |
| ③ ナイジェリア | ⑬ イラク |
| ④ チャド | ⑭ グルジア |
| ⑤ スーダン | ⑮ イラン |
| | ⑯ パキスタン |
| ⑥ マラウイ | ⑰ イエメン |
| ⑦ ウガンダ | ⑱ バングラデシュ |
| ⑧ ケニア | ⑲ タイ |
| ⑨ エチオピア | ⑳ スリランカ |
| ⑩ ソマリア | ㉑ コロンビア |

Forgotten Crisis

～忘れられた人道危機～

危機が明らかになったとき、MSFはいかなる手法で活動を組み立てるのか

—迅速で効果的な緊急プログラムの立ち上げ—

MSFが最も優先すべき援助対象、それは武力紛争やHIV/エイズ、結核などの感染症によって重大な危機に瀕しているにもかかわらず、助けの手が差しのべられずに取り残されている人たちです。独立・中立・公平の理念のもとで援助活動を行うMSFは、自らが現地に赴いて援助ニーズの調査を行った上で、援助の対象を決定しています。その選択が政治的利害や報道の有無に左右されることはありません。

©Sebastiao Salgado/amazonas images

深刻な飢饉が広がったアンゴラ(2002年)

Jean-Luc Anglade

私が活動責任者としてアンゴラにいた2001年から2003年、この国はまさに「忘れ去られた人道的危機」の代名詞であったといえます。27年間に及ぶ内戦の末期で、人道的危機が最悪の規模にまで拡大した時期でした。和平協定が結ばれた2002年4月以降、それまで援助団体が入ることのできなかった地域で、深刻な人道的危機の広がりが明らかになりました。すでに20年近くアンゴラで紛争の被害者への援助を続けていたMSFは、真っ先にこの危機の存在を察知して対応を開始しました。

私はこれらの地域を支配していた紛争当事者と交渉し、多くの避難民が集まる場所にいくつもの調査チームを派遣しました。私自身が調査に赴いたシビル

私

が活動責任者としてアンゴラにいた2001年から2003年、この国はまさに「忘れ

ジャン＝リュック・アングラード
(Jean-Luc Anglade)

1990年にMSFの活動に参加して以来、モザンビーク、ケニア、アンゴラ、エチオピアで活動責任者を歴任。現在、現地プログラムの運営を担当する部署の責任者として、ケニア、アルメニア、ブルキナファソでのプログラムを統括している。

ンドという村では、まず避難民について、その規模や到着時期、彼らの置かれている状況を調べました。ついで彼らの墓地を訪れました。死亡率を知るためです。死亡率は危機の緊急度を計る上で重要な指標ですが、そこでは通常緊急事態と定義される数値をはるかに超えています。そして5歳未満の子どもの栄養状態の調査、避難所の有無や衛生環境の調査を行いました。長い間外部からの援助がほとんどなかったために、多くの人がひとりで命を落としていました。この調査を元に、私たちは主要な死因である栄養失調への対応に焦点を絞ることに決定しました。これらの段階を経て、MSFはわずかの間に各地で大規模な栄養治療プログラムを開始したのです。

また、私はこの危機的状況の真実を伝えるための報告書の作成にも携わりました。患者から集めた膨大な証言は、彼らが紛争の道具として利用され、何の援助も受けられないまま強制的に移動を繰り返させられていたことが、この緊急事態をここまで悪化させたことをはっきりと物語っていました。MSFはこの報告書や記者会見を通じて、危機を認識し緊急援助に参加するよう国際社会に訴えかけました。

現在、私がプログラムの運営に携わっているケニア、アルメニア、ブルキナファソにも、HIV/エイズや結核、栄養失調と背景こそ異なりますが、危機的状況の中に置き去りにされた人びとがいます。このような人びとがいる限り、MSFの人道援助活動は終わることはありません。

・MSF DAY

今年は7都市でMSF DAYを開催予定

紛争、飢餓、感染症の流行、自然災害…。今、世界で何が起きているのか、私たちには何ができるのか。MSF DAYは、会場でしか見ることのできないドキュメンタリー映画の上映会、そして海外派遣スタッフによる講演会を通じ、人道援助とは何かを皆様と考える一日です。今年は札幌、福岡、仙台、広島、大阪、東京、名古屋の7都市で開催予定です。詳細はMSF日本のウェブサイト(www.msf.or.jp)をご覧ください。※全会場、入場無料です



国境なき医師団

・寄付金控除について

国境なき医師団日本は認定NPO法人として国税庁の認定を受けていますので、個人・法人の寄付ならびに相続財産からの寄付に対しては、税法上の特例措置が受けられます。領収書の宛名が正確でないと申告が認められないことがありますのでご注意ください。

ご不明な点がありましたらお気軽にお問合せください。 寄付管理データセンターTEL: 03-3764-7680 (平日9:00~17:00)

☎ 0120-999-199 (8:00~22:00無休)

・遺贈について

遺産の寄付に関するご質問をいただくことが増えています。遺産、相続財産ならびに生命保険金などの寄付についてご関心がおありの方は、お気軽にお問い合わせください。

担当: 森川 TEL: 03-5337-1380 (平日10:00~18:00) e-mail: support@tokyo.msf.org

・asahi.comで連載

朝日新聞のニュースサイトasahi.comの国際欄「国際支援の現場から(URL下記)」で、MSFに関する特集ページを2006年10月以来毎月連載しています。日本人派遣スタッフの活動報告を紹介するほか、MSFの活動理念や歴史などを毎回トピック別に紹介しています。ぜひご覧ください。www.asahi.com/international/shien/

・海外派遣スタッフ募集

国境なき医師団日本では、世界各地で活動を行う医療関係者およびロジスティシャン(物資調達管理調整員)、アドミニストレーター(財務・人事管理責任者)を募集しており、希望者を対象に「海外派遣スタッフ募集説明会」を開催しています。

開催日程

東京(毎月第2金曜日 時間: 18:30~20:30 会場: 国境なき医師団日本 東京事務局)
大阪(3月8日、5月、9月、11月)、札幌(5月)、福岡(6月)、仙台(7月)、広島(9月)、名古屋(10月)

詳細・参加申込みについてはMSF日本のウェブサイト(www.msf.or.jp/work/date.html)を参照いただくか、お電話にてお問合せください。

担当: 工藤・道津 TEL: 03-5337-1499(直通) e-mail: recruit@tokyo.msf.org

・人事改変について

臼井律郎医師の国境なき医師団日本会長および理事辞任に伴いまして、副会長の草谷洋光医師が2008年1月1日に、年次総会までの任期で国境なき医師団日本会長に就任しました。今年3月29、30日に開催予定の総会における理事改選後には改めて会長が選任されます。

www.msf.or.jp

特定非営利活動法人

国境なき医師団日本

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-13

[寄付管理データセンター]

Tel: 03-3764-7680 (平日9:00~17:00) Fax: 03-3764-7682



©Michael G. Nielsen